



今回は、「権現山古墳」を紹介  
します。

権現山古墳は市中央部の清田町  
木森にあります。五井山から南に  
延びる丘陵の先端、日当たりの良  
い丘の頂上につくられました。こ  
の古墳は、平成11年に、蒲郡市史  
編さん事業の一環として、同年10  
月15日から2カ月にわたり、学術  
的な発掘調査が行われました。

調査の結果、直径約16メートル、  
高さ約45センチの円墳であることが分  
かりました。また、古墳のすそか  
ら1.5メートルほど上がったところ  
には、外護列石と呼ばれる石積み  
が貼り付けられていることも分か  
りました。そして、お供え物であ  
る副葬品は、耳環4対、大刀、鉄  
鍔、馬具の轡など、金属製品が多  
数発見されました。それ以外にも  
須恵器、土師器などの焼き物も見

## 権現山古墳の大刀には何が描かれた？



六角形の中にトリの顔が  
(わかりますか?)

つかり、清田町付近の有力な豪族  
の墓である事が分かりました。  
この古墳で特筆されるのは、県  
指定文化財にもなっている「鉄地  
銀象嵌円頭大刀」です。長い名前  
ですが、字のごとく鉄の地金に銀  
の象嵌を施した柄が円頭の形をし  
た大刀になります。象嵌とは、あ  
るものを異なる素材に「はめ込  
む」技術のことです。この大刀の  
場合、鉄の素材に溝を彫り、そこ  
に銀で作った針金をはめ込んで模  
様を作っています。権現山古墳の  
象嵌は、六角形の中に鳥の頭が描  
かれた非常に精巧な一品で、全国  
的にも大変に珍しいものです。  
10月28日から、博物館で「蒲郡  
の古墳」展が開催されます（P19  
参照）。権現山古墳をはじめ、市  
内の古墳から出土した宝物がたく  
さん展示されます。また、これま  
での調査成果を取めた報告書を刊  
行、販売します。ぜひご覧ください。



## 食欲の秋

秋といえば、食欲の秋ですね。  
日本は四方を海に囲まれているた  
め、古くから日本人はたくさん  
海の生き物を食料として頂戴して  
きました。魚、海藻、貝に甲殻類、  
そんな食卓を彩る彼らから、今回  
はカニについてお話したいと思  
います。

蒲郡で身近なカニといえばワタ  
リガニですが、私が興味深いと思  
っているのはタカアシガニです。  
タカアシガニは日本と台湾の深海  
に生息する、世界最大のカニです。  
クモのように長い足を広げると3  
mになるものもいるそうです。タ  
カアシガニはカニ界の生きた化石  
と呼ばれており、古くからその姿

が変わっていない生き物です。  
地元の竹島水族館や全国各地の  
水族館の深海コーナーなどで活躍  
している彼らですが、時に食用に  
なることがあります。しかし、鮮  
度を保つことや調理が難しく、あ  
まり市場に出回らないため、タカ  
アシガニを食べることのできる地  
域は限られています。蒲郡は太古  
から変わらない巨大カニを食べら  
れる、全国的にも数少ない場所な  
のです。

また、蒲郡といえばアカザエビ  
も有名ですが、カニとエビは生物  
学的にも面白い関係にあります。  
カニはエビから進化した生き物  
で、尾の短くなったエビが現在の  
カニなのです。

おいしいご飯を食べながら、生  
物の進化や太古の海に想いをはせ  
てみてはいかがでしょうか。

